

科目名称	教育相談論
授業コード	AI301
英語名称	Theory of Educational Counseling
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	園山 博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	教育相談の目的は、幼児及び児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかけることです。 本科目では、学校現場で対応する場面を想定して、教員として行う教育相談の現状を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立高校での教職経験を有し、教育相談を実施してきた経験を踏まえて、教育相談の実情を教授する。
到達目標	本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「5. 教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」および「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」の習得のため、また、こども学科がカリキュラムポリシーに掲げる「教育者・保育者及び社会人としての幅広い教養を身につけ、さらに、教職または保育職の専門的知識や技能を養う」ために、教育相談に関する専門的知識の習得を通じて、次世代を担う子どもたちが生きる力を備え、能動的に学習できる社会作りを支援できる人材を育成することを目指す。
計画・内容	第1回：オリエンテーション・生徒指導提要に見られる教育相談 第2回：子どもの悩みと保護者の不安 第3回：不登校の理解と支援 第4回：いじめの現場と対応 第5回：虐待や貧困の現場と対応 第6回：発達障害及び心身症の理解と支援 第7回：自殺等の課題を把握する方法とその対応 第8回：非行・反社会的行動等の課題を把握する方法とその対応 第9回：学校を取り巻く教育相談の体制 第10回：日常の教育活動での教育相談 第11回：カウンセリングにおける基礎知識と技法 第12回：ケーススタディ(1)

計画・内容	第13回：ケーススタディ(2) 第14回：教師のメンタルヘルス 第15回：総括 子どもの理解を深めるために
授業の進め方	講義と個人ワークおよびグループワークを組み合わせつつ授業を進める
能動的な学びの実施	教員と学生、もしくは学生同士の意見交換を積極的に行うことにより、学生一人ひとりが積極的かつ主体的に、教育相談論に関する学びを深め、気づきを得ることを期待する。
授業時間外の学修	授業時間外学習 (予習)「計画・内容」に記載した内容に関する新聞記事、ニュース、書籍、文献等を検索し、それらに目を通し、必要に応じて切り抜きやコピーをとる。 (復習)「計画・内容」に記載した内容に加え、授業で配布した資料や板書の内容を見直し、疑問点や感想を自分の言葉でまとめる。 合計60時間程度行うこと
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：『生徒指導提要(改訂版)』(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm
成績評価方法と基準	授業で課す課題の評価(30%)、確認テスト(30%)、2回のレポート(30%)及び授業への参加状況(出席や発言等)(10%)で評価を行う。 なお、初回を除き3分の2以上の出席が確認できない場合、単位は認定しない。
課題等に対するフィードバック	授業で課す課題・レポートへのフィードバックは、該当回以降の授業内にて行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	スマートフォンやタブレット端末を活用することを推奨する。 授業中の私語など周りの受講生の迷惑となる行為、および課題の代筆や代返を発見した場合は、最終評価から大幅に減点する。 課題内容の盗用や無断引用を発見した場合は、最終評価から大幅に減点する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	動画や資料を使用した講義と個人ワークを組み合わせつつ授業を進める。 授業で課す課題の評価(30%)、確認テスト(30%)、2回のレポート(30%)及び授業への参加状況(出席や発言等)(10%)で評価を行う。なお、初回を除き3分の2以上の出席が確認できない場合、単位は認定しない。 課題内容の盗用や無断引用を発見した場合は、最終評価から大幅に減点する。